NEWS

同志社中学校 Doshisha Junior High School × こころまち つくろう KEIHAN 叡山電車

2017年3月29日

素敵な駅をつくる産学協同
『八幡前駅プロジェクト』の様子が新聞で紹介されました！

有志生徒8名が「駅手すりの全面塗装リニューアル」にチャレンジ

叡電「八幡前」明るく

同志社中生 鉄柵、赤色に塗る

同志社中（京都市左京区）の有志生徒らが27日、叡山電鉄「八幡前」駅（同）ホームの鉄柵のペンキを塗り直す作業を行った。以前の黄緑色から赤色に変わり、駅全体の色調にもよく合う落ち着いた雰囲気になった。

学校と叡山電鉄が共同で進める「八幡前駅プロジェクト」の一環。4年前に取り組んだ塗装が傷んできたため、現プロジェクトに関わる生徒と叡山電鉄が話し合い、人目を引きやすく時間経過を早く感じさせる効果もあるという赤色に塗ることにした。

午前中に担当した4人は、塗装職人に塗り方を教えてもらいながらホームの両端にある鉄柵を順に赤く塗り替えていった。ムラが出ないよう苦心しながらはけを使っていた1年生の深野美桜さん(13)は「よく目立ち、駅全体も明るい感じになってよかった」と話していた。（太田敦子）

さび止めを施した鉄柵に赤いペンキを塗る生徒たち（京都市左京区・八幡前駅）

京都新聞　2017年3月28日付　朝刊に掲載

「八幡前駅プロジェクト」は、2013年に始まった同志社中学校の有志生徒と叡山電車による産学協同の「素敵な駅」をつくる取り組みです。地下鉄開通後、八幡前駅の通学利用者は中・高全体の約1割ほどまでに激減し、また周辺地域の住民も少子高齢化が進み、過去の活気を失っている八幡前駅。**「町の人にとっても、同志社にとっても大切な八幡前駅を、もう一度素敵な駅にしたい。」**その思いで、これまでに「壁新聞の季刊発行」「クリスマスデコレーション」「駅の全面改装」「マスコットキャラクター ハト駅長の開発」「旧チャペルイスの寄贈」など、数多くの取り組みを行ってきました。この2016冬は、プロジェクトメンバーも第6期になり、『恋のパワースポット』をテーマに 「クリスマスイルミデコレーション」「ハート型イルミのカップル椅子」「電車が来るとクリスマスソングがホームに鳴り響くシステム導入（叡電史上初）」「地域住民（こひつじ保育園児 他）を招いてのサンタクロースイベント」などを、産学協同で実行してきました。

そして今回取り組んだのが、「駅手すりの全面塗装リニューアル」です。サビや剥がれで汚れた手すりに美しさを取り戻し、最寄りの三宅八幡宮を連想させる「朱色」にすることで、“寂しい”“暗い”といった駅が抱える課題を、“賑わい”や“明るさ”に変えたいと願ったものです。周辺地域住民の方々や観光客にとっても、駅への注目や関心を高めることにもつながると期待しています。

PBL（**Problem Based Learning**）やアントレプレナーシップ教育も注目される今、京都の街に根差した本プロジェクトは、中学生自らが主体的に活動するスタイルを重視した運営を基本に、実社会や企業とコラボレーションする産学協同を実践しながら、課題解決能力や企画提案力、チームワークやリーダーシップを身につける学びを創り出しています。